学校教育目標　かしこく　たくましく　心豊かな　児童の育成
目指す児童像　瞳・笑顔・汗・会話　きらきら輝く　鈴谷の子

令和６年１０月３１日号
家庭数配付

鈴谷小だより

令和６年度　第７号
さいたま市立鈴谷小学校　☎８５２－５６７５
鈴谷小Ｗｅｂページアドレス　https://suzuya-e.saitama-city.ed.jp/

変わらずに大切にしていきたいもの

校長　　中田　清人

私の座右の書は、「方丈記」です。この短い随筆をもう何度読み返したことでしょう。読むたびに、気付かされることの多い文章です。私には特に信仰心はありませんけれども、「方丈記」でみられる無常観は、どこか私の性格にマッチしている気がします。次のような記述を読むと、例えば東京スカイツリーのような巨大な建造物が、あとどれだけの年月そびえ立つことができるのだろうと、悠久の時の彼方に思いを馳せることもあります。少し長くなりますが引用します。

たましきの都のうちに、棟を並べ、甍（いらか）を争へる、高き卑（いや）しき人のすまひは、世々を経て尽きせぬものなれど、是をまことかと尋ぬれば、昔ありし家はまれなり。

この「方丈記」は、災害文学と言われることもありますが、私は「災害」そのものが主題だとは思いません。確かに、竜巻や火事、地震など多くの災害を扱っていますが、それはこの世の流転を生み出す要因の一つとして扱っているという気がします。中には奈良の法隆寺のように千数百年前に造られたものが、現代まで残されているものもありますが、一見変わらないように見える建物でも、建てられた位置が変わったり、修復が適宜行われていたりして、建設当時の姿をそのまま残しているとはいいがたい。常にどこか変化が加えられている。

人工物ばかりではありません。我々生き物の体も、日々変化しています。生物学者の福岡伸一さんの著書「生物と無生物のあいだ」では、我々の体は、何か月か経つと、見かけは変わらないが、分子レベルではすっかり入れ替わっていると述べられています。

こう考えると「変化」は我々人間にとって宿命のようです。また、絶対だと思われていたものが、ある時、その価値を大きく変えてしまうこともある。例えば、天動説が分かりやすい例でしょうか。所謂「パラダイムシフト」というやつです。

この度、すずやっ子サポーターズ主催の「防災サバイバル」や運動会を、成功裡に実施することができました。前号の学校だよりでも述べましたが、子ども達のために主体的に手を挙げて参加してくださった皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。校長としてとてもうれしかった。私としては、こうした子供の成長を目的とした大人の連携をこれからも続けていきたいと考えています。そのための拠点として、学校はあるべきと思います。しかし、「方丈記」で語られるように、時間とともに人は入れ替わり、環境は変わり、大切だと思っているものもその価値を変えていくのが、この世の中です。「継続すること」そのものを盲目的に目的とすべきではないでしょう。あくまでも、「子供たちの成長のため、幸せのため」に私たち大人は何ができるか、何をすべきかを常に考え、話合い、実践していくことが、今後も変わらずに求められると思います。これからも、皆様方と手を取り合って交流や議論、実践を重ねてまいります。

数日後には「すずや祭」も控えています。こちらも、どうぞよろしくお願いいたします。